

I 学習計画表の活用の仕方

各教科の学習計画表には、教科ごとの目標や学習の特徴、授業の流れが提示されています。

ここには、その読み方と活用の仕方を示しました。

これを参考にして、今年1年間、どのように学習を進めていくか、自分自身の目標を立てて、計画的に取り組んでいきましょう。

その教科の3年間の学習の流れが載っています。

教科の学習目標

3年間で身につけてもらいたい、各教科の学習の目標が書かれています。

自分自身の3年後のイメージを持ち、日々の学習に取り組んでいきましょう。

3年間の科目構成と学習内容

各教科の6年間を通した科目の構成とその学習内容が書かれています。

学校では、これに基づいて、教科担当の教員間の連携を図り、組織的・体系的に指導することで、みなさんに確かな学力が身につくよう、学習活動を展開していきます。

「科目」と学習内容

各学年で学ぶ教科・科目と、その内容について書かれています。

学年が上がるに従って、どのように進んでいくのかがわかります。

3年間を見通した教科の指導計画（平成23年度入学生）

国語科

I 国語科の学習目標

(1) 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。
 (2) 多様な表現を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。
 (3) 優れた国語表現を学ぶとともに、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。
 (4) 言語を愛する能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。
 (5) 古典に描かれた世界を鑑賞することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。

国語科の3年間の科目構成と学習内容

学年	科目	単位数	学習内容
1年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に親しみ、読解する能力を身につける。
2年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。
3年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。
4年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。
5年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。
6年	国語総合（必修）	計5単位	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。
	現代文（必修）	2単位	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。
	古文（必修）	2単位	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。

その教科の各科目の1年間の授業計画が示してあります。

学習の到達目標

その学年のうちに、どのような力を身につけてほしいか、教科の到達目標が書かれています。

年間を通して、どのようなことが目標なのか、そのためになにをどうしたらよいかを考えて、授業に取り組み、学習を進めていきましょう。

考 査

定期考査(テスト)の時期と出題の範囲が書かれています。

家庭学習を含めて、計画的にテストへ向けての準備をしましょう。

学習内容・授業時間数

年間の中で、いつ、どのような学習を、どのくらいするのか書かれています。

1年間の見通しを持って、学習計画を立てていきましょう。

教科名 国語科
科目名 国語総合・現代文
対象 4学年全員

I 学習到達目標

- 1 評論を読み、その論理の展開を捉え、要旨・筆者の主張を的確に読み取る力をもつようになること。
- 2 小説を読み、作品の構成・登場人物の人物像・主題などを的確に読み取る力をもつようになること。
- 3 詩歌を読み、国語表現の豊かさを味わいつつ、その作品世界の趣きを感じ取ることができるようになること。
- 4 随想を読み、その作品に示された筆者の感性・人柄・人生観などを読み取ることができるようになること。
- 5 常用漢字表を中心として、漢字の読みかた・書きかた・読みかた・書きかたを正確に覚えること。

II 授業の進め方(授業形態等)

- 1 国語総合5単位のうち、2単位の時間で学習する。評定は、現代文・古文・漢文の3領域を総合したものとなる。
- 2 課題学習を中心とする。予習確認のための小テストを毎月毎に実施する。また、定期的なノートの提出を求める。
- 3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることによって学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「精選 国語総合」東京書籍 「新版初訂カラー版新国語便覧」第一学習社
補助教材 「音と形で覚える漢字の演習」明治書院 「新版初訂カラー版新国語便覧」第一学習社

IV 学習計画

期	月	学習内容	授業時間数	備考	
一学期	春休み	【教科書】による学習内容 : 「音と形で覚える漢字の演習」 P.10～17			
	4	評論「水のあるところ」 P.18～24	1回～8回	4～6	
	5	小説「藤生門」 P.26～39	音と形による分類 9回～16回	6～8	
	6	1学期末テスト	P.98～99 P.100～102	P.36～51 音と形による分類 1.7回～2.4回	6～10
	7	詩歌「なめとこ山の熊」 P.64～79	P.46～52 P.64～79		4～6
	8	随想「かぜのひきかた」 P.103～105	P.103～105		
二学期	夏休み	宿題「神楽の手記から」 P.140～164	P.52～79 音と形による分類 2.5回～3.8回		
	9	2学期初テスト	P.108～112	P.80～97 音と形による分類 3.9回～4.7回	4～6
	10	詩歌「花野」 P.80～95	P.53～62		4～6
	11	随想「聴くということ」 P.53～62			2～4
	12	2学期末テスト	P.122～127 P.128～138	P.98～115 音と形による分類 4.8回～5.6回	6～8
	1	1学期末テスト	P.113～117		2～4
三学期	冬休み	宿題「君たちに伝えたいこと」 P.182～187	P.116～133 部首による分類 1回～1.8回		
	1	3学期初テスト	P.166～174 P.175～180	P.134～151 部首による分類 1.0回～1.8回	4～6
	2	随想「断片化する世界」 P.175～180	P.152～182		6～10
	3	3学期末テスト	補助プリント	総合問題	計 70

評価

各学期定期考査(小テスト)の提出及び宿題(小テスト・ノート提出・ホウズリ)を加味したものを評価の対象とする。
なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。
現代文については学期1回定期考査を行い、学年末には古文・漢文と総合して「国語総合」として成績の評定を行う。

長期休みの宿題

夏期、冬期、春期の各長期休業中に
出される宿題・課題と、その後の確認
テストの有無がわかります。

普段なかなか取り組めないような、長
い休みを活かした課題や、教科の実
力を磨くための、総まとめをする宿題
などが出されます。

また、休み明けには、その成果を確認
するためのテストが行われることもあ
ります。

評 価

成績評価について、書かれています。

どんな力や態度をみるのか、またそのための評価方法や使用する資料の主なものは何か、などが書かれています。